

開会式主催者挨拶並びに札幌市長及びスペシャルオリンピック코리아首席副会長祝辞

主催者 小野寺 眞 悟 理事長の挨拶

○おはようございます。

○第1回小野寺杯・北海道特別支援学校フットサル大会、参加校、全道16校、韓国2校、計18チーム、選手参加数139名で開催することができました。

○この大会には、大変、お忙しいところ出席してくれました秋元札幌市長ありがとうございます。また、私と同じ志を持つ韓国からスペシャルオリンピック金首席副会長、遠い所から来ていただきありがとうございます。

○さて、選手の皆さん、小野寺障がい者スポーツ振興会が、この大会を開催した目的を説明します。選手の皆さんは、学校を卒業し、社会人になります。社会に出たら働きます。働く時の一番の基本は、精神的、肉体的に強く、かつ協調性を身に付けることです。私たちは選手の皆さんに、スポーツ・フットサルを通して、根性をうえつけてほしいとの願いです。

○選手の皆さん、今日は日頃の練習成果を充分に出して、怪我の無いよう、頑張ってください。

○最後に本日の大会運営・進行することができますことは、札幌北の杜ライオンズクラブと、学校関係者の皆さんのお陰です。感謝しております。

○では、選手の皆さん、健闘を祈ります。

秋 元 克 広 札幌市長の祝辞

○ 皆様、おはようございます。札幌市長の秋元克広でございます。

○ この度、全道各地、さらには韓国からお越しいただきました選手・役員の皆様を、196万人の札幌市民を代表して、心から歓迎いたします。

○ また、本大会の開催に向けて、準備を進めてこられました役員をはじめとした関係者の皆様には、深く敬意を表するとともに、このように大勢の方がお集まりのもと、本大会が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

○ さて、札幌市では、冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向けて、障がいの有無に関わらず、誰もが互いに支え合う共生社会の実現を目指し、障がい者スキーの国際大会を開催するなど、さまざまな取り組みを進めております。

○ そうした中、昨年は明日佳グループ様主催の「日韓知的障がい者サッカー交流大会」をここ札幌で開催していただき、大いに盛り上がりました。

○ 今回もこうしてフットサル大会をこの地で開催することにより、障がい者スポーツの普及促進や理解向上が一層進む機会となることを願っております。

○ そして、選手の皆様におかれましては、日々の練習の成果を十分に発揮され、熱い戦いを繰り広げていただくよう期待しております。

○ また、この大会を機に、同じ志を持つ仲間と親交を深めていただくことで、皆様がさらに成長されるきっかけとなれば幸いです。

○ 結びに、本大会のご成功と、会場にお集まりの皆様のますますのご健勝・ご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

金 源 慶 スペシャルオリンピック코리아首席副会長の祝辞

一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会が主催する2017年度第一回小野寺眞悟杯フットサル大会が無事に開催されたことを心からお祝いします。

小野寺理事長は、病院経営等の事業以外にも、障害者福祉の増進に向けてたいへんすばらしい仕事も着実にいらっしゃると存じます。

したがって、こんなに大規模の障がい者の体育大会を新たに企画したと思っています。

特に、一衣帯水と呼ばれる韓国と日本の地理的な近さを含め、隣国である、我々、韓国知的障がい者の選手達を招待して頂きとても光栄です。

今回、韓国から二つのチーム(安東永明学校、済州島連合チーム)の26人の選手団が参加しました。この参加した選手達には一生忘れられない思い出になります。

韓国の選手達は北海道、そして大きくは日本と言う国を理解する良い学習にもなるし、試合にも公正、かつ忠実に臨むつもりです。

今日、この大会の主役である北海道と韓国の選手団の皆さんに提案します。

とても恵まれた季節に、仲の良い友達と、すばらしいフットサルの試合をすることができるのは、この大会の設立者である小野寺理事長の大きな貢献があったからです。

韓国の選手も当然のことですが、小野寺理事長をはじめこの大会の開催に関係した多くの人に対して、感謝する心を持って試合に参加してください。

そして、会場の中で出会う関係者の先生たちに、挨拶や感謝する表現を必ずして下さい。

いや、感謝の気持ちは、ここで直ちに表現するのも、お礼のための良いマナーだと思います。

皆さん! 私と一緒に小野寺理事長をはじめ、大会の関係者の皆様にお礼の挨拶をしましょうか。

小野寺眞悟理事長ありがとうございます!

大会の関係者の皆様ありがとうございます!